

第7回講座を受講して

塾生番号：01

氏名：三橋達雄

参議院議員宇都隆史先生にお話しいただいた当講座は、航空自衛官であられた先生ご自身の経験を踏まえながら、安全保障の視点で見た国家観の再考を我々塾生に促す私にとっては大変に貴重な時間となった。

国家観を考える大前提となる「国家の三要素」は、学校などで教えられる「領域」「国民」「主権」である。このうち、「主権」は1648年の30年戦争終戦時のヴェストファーレン条約において「国内の最高決定権および対外的独立性としての主権」と定義されるなど「対外的独立性」を持って初めてその体を成す。日本の領土・領海・領空を脅かす周辺国のニュースが連日報道される昨今、安全保障に関するは、憲法改正と共に国民的な議論を行い得る機が熟していると私も考える。

軍事的有事に対する備えは、想定外を廃して万全に成される事が第一であり、その結果として現行体制の運用改善を日々行う他、運用改善のみでは対処できない問題についてはこれを国民の理解の下に世界的国際情勢に沿う形でできるだけ速やかに改めて行く必要がある。例えば、軍事的有事における国内治安維持の方策や、中・長距離ミサイルを迎撃する現実的方策と専守防衛策との齟齬等、一般国民である私の視点で見てもその備えが非常に心配である事項は多い。

私はこれまで、沖縄に行った際には平和祈念公園やひめゆりの塔、嘉数高台公園などに赴き、墓参りに行く際にはノモンハンで戦死した先祖の墓標を確認し、満州国から引き揚げる際の祖母や父親の記憶話を時々思い起こす事で戦争の悲惨な事のリアリティをできるだけ感じるようにしてきた。それと共に国防に対する認識も、自身が伝えられる小さな範囲で今後もできるだけ議論をしていきたいと思っている。

最後になりましたが宇都隆史先生、大変ご多忙な中を我々自民党ぎふ政治塾生の為に貴重なお話とお時間を賜り、本当にありがとうございました。